

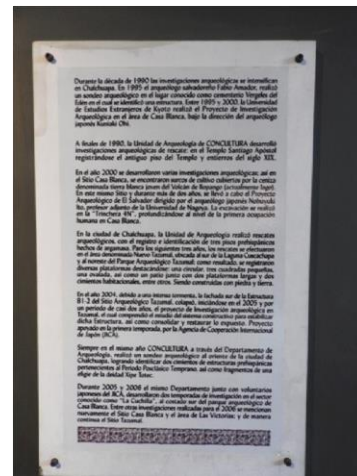


遺跡

エルサルバドルには、2015年の日本との外交関係樹立80周年の機会に眞子内親王殿下がご訪問されたユネスコ世界遺産ホヤ・デ・セレン遺跡をはじめとするマヤ文化の遺跡があります。首都サンサルバドルから北西に約80キロ進むと、日本の協力により考古学調査・設備整備が行われたサンタアナ県のチャルチュアパ遺跡群を訪れることができます。そこでは、日本の大学の考古学調査団の活動や、草の根文化無償資金協力、JICAの青年海外協力隊派遣を通じて、カサブランカ遺跡やタスマル遺跡の調査・修復、施設整備等が実施されてきました。



タスマル遺跡のピラミッド



チャルチュアパ遺跡群における
日本の協力について詳述する解説板

また、マヤ人も利用していた藍の産業は、エルサルバドルでは1970年代に衰退しましたが、1990年代に日本の技術協力により復活しており、カサブランカ遺跡には日本の支援で藍工房ミュージアムも作られています。



日本の支援で作られたカサブランカ
遺跡にある藍工房ミュージアム